

# 小沢強制起訴は最高裁の謀略なのか

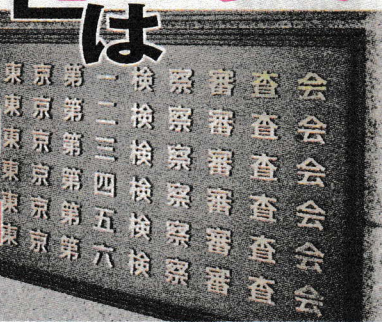
## 検察審査員

## 「選定ソフト」は

## イカサマ自在



候補者名簿管理システム



今週17日、民主党の小沢にもかかわらず、「推認」一郎元代表の公判で証拠採の積み重ねで有罪にされた用の可否が決まる。焦点は「法は、小沢強制起訴の唯一の証拠に基づく」なんて大根拠となった元秘書・石川ウソ。小沢裁判では何が起知裕衆院議員の供述調書がきてもおかしくない。

証拠採用されるかどうか。ここへきて、強制起訴にだ。もつとも、裁判関係者 至った。経緯にも不信のは「証拠採用で一喜一憂し 目が向けられている。強制起訴を議決した「検察審査秘書3人の裁判では、検察会」の審査員選定に関する調書の大部分が「信用できて、重大疑惑が浮上していない」として却下された。のだ。

検察審査員は、各地の選挙管理委員会が選挙人名簿から抽出した100名の候補者名簿をもとに、「検察審査員候補者」を選定する。ところが、本紙が選定ソフトの内部資料を入手し、検証してみたところ、「操作的に」審査員を選定することが可能なの

「操作マニュアル上は、暗号化された選管の名簿が読み込めないことに

「操作マニュアル上は、暗号化された選管の名簿が読み込めないことに

「操作マニュアル上は、暗号化された選管の名簿が読み込めないことに

「すべて事務総局が決めたこと」

「確かに、以前はガラガ

「確かに、以前はガラガ

「確かに、以前はガラガ

なっている。中立性を担保できないが、実際、セキユリティー上もはエクセル問題だ。しかもこのソフトで、総額6000万円と目をつき込んで、欠陥ソフトをわざわざ導入する必要がなかったのか。

「確かに、以前はガラガ

「確かに、以前はガラガ

「確かに、以前はガラガ

ざるし、一致はあり得ない」と疑問視されていた。

やはり、「黒幕」は最高裁事務総局なのか。小沢を抹殺するための謀略を仕掛けたのが最高裁だとすれば、恐ろしいことだ。この国には、公平・公正な司法も、正義も存在しないことになる。